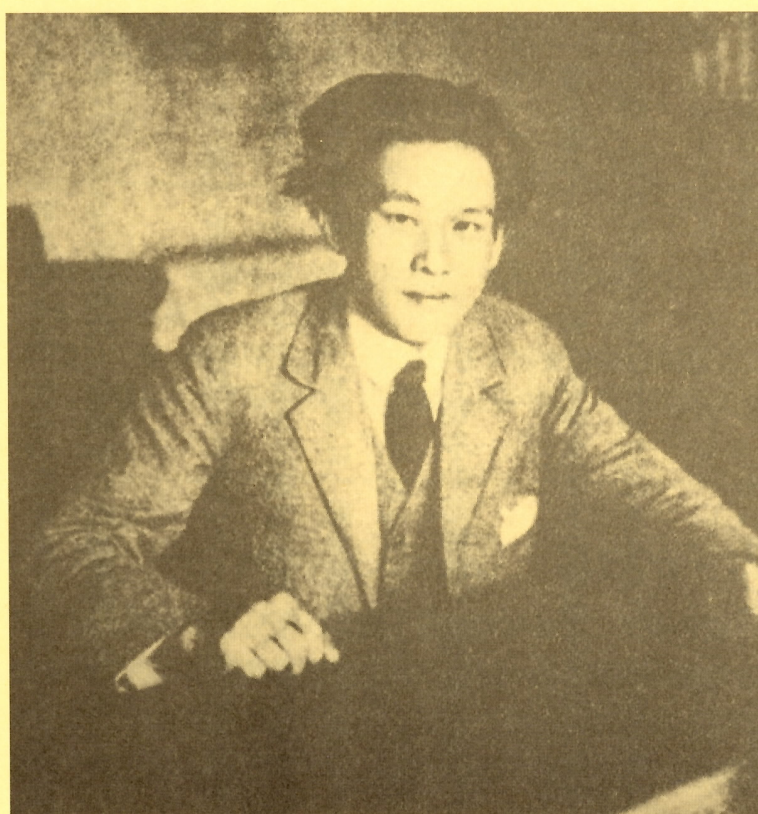


「五感に響け 新しい波」 第17回 大分県民芸術文化祭参加行事

第17回 横光利一俳句大会

～入賞作品集～



表彰式 平成27年10月24日(土) 午後2:00～3:30

宇佐市民図書館 視聴覚ホール

主催／宇佐市・宇佐市教育委員会・豊の国宇佐市塾
後援／大分県・大分県民芸術文化祭実行委員会・NHK 大分放送局
OBS 大分放送・TOS テレビ大分・OAB 大分朝日放送

こあいさつ

「横光利一俳句大会」も今年で十七回目を迎えることとなりました。また、昨年から、写真家の浅井慎平先生と俳人の野中亮介先生に選者をお願いしての新たなスタートから、無事、二年目を迎えることができました。今年もまた、全国すべての都道府県や海外から、たくさんのご応募をいただきました。これもひとえに、この会を支えてくださるみなさまのおかげと感謝申し上げます。

さて、今年が戦後七〇年という節目の年にあたることから、前回から特選部門に設置いたしました「平和のともしび」賞を、引き続き今回も設けることにいたしました。

また、今回新たに、「HANAMIZUKI賞」を設け、英語によるHAIKU作品も募集する試みをいたしました。賞名の由来は、アメリカ政府が二〇一二年からはじめた、日本にハナミズキを贈る運動「ハナミズキ・イニシアチブ」によるもので、この三月に宇佐市にも三十本が植樹されたことにちなんでいます。選者は、記念植樹で宇佐市にもおいでになったハワイ太平洋航空博物館相談役のギャリー・G・マイヤーさんが英語俳句会の主宰者でもあったことから、快く引き受けてくださいました。

戦後七〇年を記念して、この俳句大会からも「平和の尊さ」「戦争の悲惨さ」「不戦の誓い」「日米の友好」など、未来に向けたメッセージが発信できれば幸いなことと思っております。

応募総数は六三一一句で、内訳は、一般の部が三〇六三句、中学生以下の部が三二四八句でした。また、団体応募は、県内外の小・中・高等学校を中心に、三五校から三四二八句に及ぶ作品をいただきました。応募人数は二六〇六人。うち、一般応募が八五〇人、中学生以下が一七五六人でした。

終わりに、みなさまの今後のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、あいさついたします。

平成二十七年十月二十四日

宇佐市長 是永修治

第十七回

「横光利一俳句大会」表彰式

式次第

- 一、開会
- 一、主催者あいさつ
- 一、表彰式（特選・秀作・佳作）
- 一、当日句入選者発表・表彰
- 一、講評 野中亮介氏（選者）
- 一、閉会

■選者■

浅井慎平氏 昭和 12 年、愛知県生まれ。写真家・俳人。句集に『二十世紀最終汽笛』、『冬の阿修羅』などがある。

野中亮介氏 昭和 33 年、福岡県生まれ。俳人。俳人協会理事。俳誌『花鶏』（あとり）主宰。著書に句集『風の木』、鑑賞読本『俳句ころ遊び』などがある。

横 光 利 一 Riichi Yokomitsu （1898～1947）

宇佐出身の父・横光梅次郎と伊賀町（現・三重県伊賀市）出身の母・こぎくとのあいだに、父の仕事先であった福島県で生まれた（利一の本籍は生涯宇佐にあった）。

菊池寛に認められ、川端康成を紹介されて親友となる。新感覚派文学のリーダーとして、昭和初期からめざましい活躍をし、昭和十年代には「文学の神様」と称された。

代表作に「日輪」、「上海」、「機械」などがある。また、半生をかけて書き続けた未完の大作「旅愁」の後半に主人公が故郷の九州を訪ねる場面があり、そこには宇佐の自然や人々との触れ合いが描かれている。

友人・知人に俳人が多く、自らも熱心に句作をし、小説の中にも盛り込んだ。また、句会「十日会」を主宰し、俳人の水原秋桜子や石田波郷らが参加したほか、門人の石塚友二や清水基吉は、小説家のかたわら俳人としても活躍した。

1998年に生誕百年を迎え、伊賀市（三重）、世田谷区（東京）、宇佐市、鶴岡市（山形）など、全国のゆかりの地であいついで記念事業が行われ、以来、各地の交流が続けられている。「横光利一俳句大会」も、宇佐市の生誕百年記念事業の一環として始められ、現在に至っている。

第十七回 横光利一俳句大会 入賞作品

【一般の部・特選】 十句

横光利一俳句賞

かりがねの一氣に下る月の道

赤堀ふみ

静岡県掛川市

大分県知事賞

霾るや転校生の頃の空

藤崎由希子

福岡県宗像市

宇佐市長賞

行く先は告げずに来たり久女の忌

延寿寺富美

福岡県北九州市

宇佐市議会議長賞

音ひとつなき大空や敗戦忌

安倍日出

大分県宇佐市

宇佐市教育長賞

戦争に千の証言時鳥

中尾豊子

大分県大分市

大分県北部振興局長賞

囀や日増しに高き水の音

荒巻勝郎

福岡県上毛町

浅井慎平選者賞

余生とは言はぬ漢の祭足袋

安部紀久子

大分県豊後高田市

野中亮介選者賞

縄跳びをしながらデモについて来る
牧野弘志

長崎県長崎市

平和のともしび賞

顔よぎる遮断機の影終戦日

中山幸枝

福岡県篠栗町

HANAMIZUKI賞

Hanamizuki in exchange for cherry trees blossoms of friendship

Keith Simmonds —France

【中学生以下の部・特選】

十句

横光利一俳句賞

自転車のサドルを五センチ上げた夏

森本秀明

宇佐市駅館小四年

大分県知事賞

肩車あと一センチのさくらんぼ

森すずか

小川町檮台中二年

宇佐市長賞

面一本とられて終わる僕の夏

岩武 陸

宇佐市北部中三年

宇佐市議会議長賞

花火はねえ顔を作るまほうの火

石川莉帆

宇佐市佐田小四年

宇佐市教育長賞

泡吹と私の恋もほころびて

鳴海 舞

宇佐市駅川中三年

大分県北部振興局長賞

日やけした顔が男のくんしょうだ

矢頭正之

上毛町唐原小三年

豊の国宇佐市塾賞

夕だちが友達れて来た夕焼けを

溝口光一

宇佐市安心院中三年

浅井愼平選者賞

夏休みおれと竹刀と友情と

渡邊臣人

宇佐市西部中一年

野中亮介選者賞

かくれんぼ寝蓐座にもぐる通知表

古門美羽

宇佐市北部中一年

平和のともしび賞

原爆の音で消えたたよせみの声

佐藤大輝

宇佐市安心院小六年

【一般の部・秀作】五十句

小麦色してみんなみの竹婦人	阿久根紘二	筑紫野市	失明の兵に一朶の蠟梅花	神馬せつを	金沢市
母といふやはらかきもの毛糸編む	市ヶ谷洋子	大分市	道端の銀河をまたぎ会ひにいく	岸野由夏里	京都市
終日を裸足ですごし原爆忌	岩波千代美	大分市	うつむくも仰ぐも祈り敗戦忌	清瀬わか子	宇佐市
農耕馬に還る軍馬や鯛雲	岩橋玲子	久留米市	豊の秋村の床屋はお昼まで	栗山よし子	長崎市
止まり木は男の孤島祭笠	上島幸重	別府市	晩節や帰燕の胸の白きこと	古賀宣道	別府市
特攻趾の乙女椿の実は爆ぜて	植田桂子	高松市	蝸の身を振り絞る木立かな	後藤南女	大分市
草の実をつけて山の子一限目	白木すなえ	上毛町	朝顔の色とりどりと云ひがたし	小林奈穂	福岡市
人の子を桜に変へし国ありて	浦上昭一	秦野市	戦なき空へ飛び立つ天道虫	近藤國法	日南市
正面に由布岳のある夏座敷	大隈草生	宇佐市	しまひ湯のぬるさに慣れて虫の声	近藤伸子	京都市
荷一つの似顔絵画家や鳥渡る	岡 汀子 三木町(香川)	女教師のチョーク短し横光忌	佐野鬼人	富士宮市	
ふるさとの山河は青し蕎麦の花	押谷 隆	別府市	妻恋ふる鹿の目赤し観世音	下川富士子	玉名市
燕去ぬ空に微熱の残りけり	小田祥子	津久見市	ごきぶりの一目散を許しやる	杉山哲也	京都市

秋晴の妙義は空を動かさる	涼野海音	高松市	残雪や基地へと続く深轍	橋爪あゆみ	入間市
特攻機送りし月の照るばかり	多田淑子	東広島市	鬼の子を風に遊ばせゐて無聊	平田節子	大分市
鉦叩き耳をすまさば遠のきぬ	立石勢津子	長崎市	天井に龍棲む寺や秋惜しむ	平野 宏	磐田市
三輪車取り残されし花野かな	為成央子	豊後高田市	山法師心合せて発つ気配	湊野陽鳥	大分市
絶え間なく水の流るる原爆忌	寺坂近舟	大分市	ひたすらと言ふはせつなき鉦叩	古川みつよ	津久見市
虫送りして夕風の白ひけり	富尾和恵	大分市	端居して星を数ふる敗残兵	豊東美智子	大分市
八月の首に重たき黒真珠	富川泉子	大分市	約束へ歩み涼しきシルク観衣	松尾荃生	京都市
墓地からも学校からも雲の峰	中野清彦	伊豆市	噴水の水の切れ端子の自由	松本みゆき	大分市
囀や待合室の古時計	中野美智子	上毛町	透きとほるコップの水や終戦日	宮口京華	神戸市
街路樹の一筋の道涼新た	中村祐子	福岡市	炉話の火影が意志を持ちはじめ	村田一広	甲府市
古書店の裸電球梅雨深し	中山恵美子	上毛町	樹の影をはなるる影の蝶となりぬ	本村征也	霧島市
信念を貫く男梅真白	野中安子	大分市	名月やタンカー一艘洗ひ出す	吉湊土太郎	川内村(福島)
離の間に笛の落ちたるゆふべかな	信安淳子	岡山市	To Hachimangu our destiny awaits us. We ask God's respect. Ryoji Koike Hawaii		

【中学生以下の部（小学生）・秀作】二十五句

父さんとうでの黒きのやけ比べ 秋山優貴 伊賀市柘植小六年

先頭で登校するよ梅雨の朝 阿地莞汰 阿南市長生小六年

忘れないあの夏の日のあの悲げき 有馬 毅 津久見市保戸島小六年

ひまわりがわたしを向いてのびている 伊藤桃子 安心院小六年

かをころすかとりせんこういいにおい 植松菜々美 高家小六年

田んぼはねおたまじゃくしのプールだよ 榎園愛里澄^{ありす} 西馬城小四年

道しるべ真つ赤なちようちんひがんばな 小野七乃風^{なのか} 西馬城小五年

夏空に打ったボールが一直線 河野陽紀^{はるき} 四日市南小五年

かき氷氷の山脈崩れ落つ 後藤めい 大分市駕野小六年

うちわ持ちみんなで集まり盆おどり 新貝^{のどか}和花 糸口小六年

夏の日にはじめて目にしたげんばくドーム 隅山^{すやま}弥友羽^{みゆう} 高家小二年

虫あみが空をからぶりせみのかち 田崎^{だいと}大翔 長洲小二年

わすれない八月六日の空の下 堤 輝石 封戸小六年

夕立ちのあがりを知らせるセミの声 時枝結菜^{ゆいな} 長峰小五年

原爆は私自身を汚してく 中山さくら 和間小六年

ふうりんの音を聞きつつ昼ねする 橋本拓弥 豊川小四年

せみの声わたしもまけずにピアノひく 原 夏鈴^{かりん} 院内中部小五年

あり二ひきおはかの前を歩いてる 堀川千翔^{ゆきと} 伊賀市柘植小四年

つばめのすぜんぜんいないすがあるよ まつうらせりな 伊賀市柘植小二年

夏祭り終わりは空を照らし出す 丸本 翔 伊賀市柘植小五年

夏祭り夜空に咲いた花畑 溝部 郁 深見小六年

雨雲が夏を伝えるに到来す 安田千夏 由布市谷小六年

朝の花そだててきそうにじの色 山上^{やまかみ}あい 安心院小二年

宇宙船無事にわたれよ天の川 山本 結 宇佐小五年

緑から赤へとかわるはっぱたち 吉田こころ 院内北部小五年

【中学生以下の部（中学生）・秀作】二十五句

雨の後必ずにじがあふれてる 安部 茜 安心院中一年

あいさつにツバメの親子やってくる 池田礼太 小川町榊台中三年

薫風を切って飛んでけこのサーブ 石川絵里 小川町榊台中三年

静かだな爆弾の音も聞こえない 石川大地 安心院中一年

新緑の中で読めたらいいのにな 宇都宮葉 日出町南端中三年

月明かり照らしだされるかぶとむし 岡田小春 長洲中一年

ひまわりが太陽見つけ振り返る 河野紗里奈 宇佐中三年

夏の花暑いそれでもねばる花 木部大志^{たいし} 北部中二年

雪だるま一日もたずにいなくなる 坂内帆空斗 小川町榊台中二年

元気出るひまわりの前通るたび 鈴木雅代 駅川中二年

夏祭りひとみに写る花火かな 中山夢琉^{ゆめる} 北部中一年

川釣りでぐっしよりぬれた僕のシャツ 林源基^{げんき} 院内中三年

夕立のあとのうらやまにじが出る 原田麻佑^{まゆ} 北部中二年

青々といねが風とおどってる 原のどか 北部中一年

せみの声あの日もこんな夏だった 樋田彩希^{みさき} 駅川中一年

朝練のテニスコートに露キラリ 松浦祐太郎 加古川市加古川中二年

滝の音に虹も心も飲まれゆく 松下周平 小川町榊台中三年

夏木立涼しい風がふいてくる 松成志歩 長洲中一年

夕立できれいな大きな橋できた 三木晴翔^{はると} 北部中一年

パツと咲き夏の夜空は恋花火 村上亜美 西部中一年

爽やかな風がふくたび髪なびく 山本夢羽^{ゆめは} 竹田市直入中一年

おばあちゃんと一緒に数えた鯉のぼり 山下乃愛 小川町榊台中二年

足を踏み出すと蛙が八方に 吉弘航^{わたる} 安心院中三年

青い空入道雲が散歩中 吉松花恵^{はなえ} 駅川中三年

透かしたら海という名の桜貝 渡邊真衣 小川町榊台中三年

【一般の部・佳作】一四七句

白線で区切る歩道や夏つばめ	藍沢きよ子	別府市	昭和の日まだ捨てきれぬ金盃	井上アサ子	久留米市
金魚鉢曇り疑心の眸の育つ	上尾ヤス子	大分市	蟬の声道いっばいにこだまする	井上捺実	中津市（高三）
鯛雲より垂るるへちまよ子規の目よ	秋山田京子	福岡市	古里になり得ぬ町や芙美子の忌	井上寿子	直方市
探梅の空やはらかくなりにつけり	秋吉美津恵	上毛町（福岡）	肩幅に陽の落ちてくる松手入	井ノ口睦子	中津市
浴衣着て夢中で向かふ君の家	安部とみ子	大分市	引揚げの野宿の夢や星月夜	猪原恵子	大分市
ジーンズの両膝破れ夏季講座	天田牽牛子	共和町（北海道）	海鞘切つて海の活気を真向から	今岡久代	竹富町（沖縄）
去年までひとりで聞きし遠花火	石井かおり	日田市	鏡など見る暇もなく若き蝶	岩中幹夫	玉野市
旅人は戦史を知らず夏の海	石川 昇	世田谷区	桃の冷触つてをりし指の先	岩本文子	津久見市
炎天や新感覚の風が吹く	石川正尚	江戸川区	特攻機飛びし夏空今日も在り	植田正太郎	高松市
秋の風音楽室の肖像画	石田幸栄	秋田市	水兵の一重瞼や秋茜	植田廣子	高松市
失ないしものに呼ばるる虎落笛	石村あさ子	中之条町（群馬）	八月の生米ゆっくり噛んでみる	植高すすか	川崎町（福岡）
身ぎれいな風の吹くなり草紅葉	磯永喜八郎	宇佐市	流れくる祭り唯しか菊の風	浦田穂積	唐津市
草笛の息ゆたかなる翁かな	磯部とし乃	岡山市	雪溶けて新たな命顔を出す	円城寺彩加	中津市（高三）
手をつなぐ少しの勇氣夏まつり	井手久美子	北九州市	暑い夜夜空にうかぶ花畑	円城寺加織	中津市（高一）
秋風の天の岩戸を漏れ来たる	出田量子	長崎市	円卓のモカの香りや小鳥来る	大石敏子	上毛町（福岡）
まだ熱きコンクリートやデモを待つ	伊藤弘子	名古屋市	跳箱の着地決まりて鯛雲	大木本法通	上毛町（福岡）
山の湯の最も秋を想ひけり	伊南朋朗	大分市	一億の視線の合ひぬ今日の月	大場ひろみ	村山市

影引いて風と旅する秋通路	岡崎優子	大分市	空襲に耐へし門柱梅雨長し	近藤浩子	高松市
明日出征父も踊りし盆踊り	岡部伸子	横浜市	一步ずつ荷物を下ろす通路かな	斉藤真一	秋田市
青ほおずき少女の乳房まるやかに	荻野春子	福岡市	不自由なるもの美しき水中花	斉藤浩美	東海市
流星や水車の回る音のして	甲斐千晶	明石市	夕涼し川に船の灯岸边の灯	坂本多加江	日田市
寺町と呼べど三寺や木の実降る	梶原マサ子	宗像市	玉音も古稀を迎えて夏深し	坂本義教	石井町（徳島）
足入るる所まつ刈る稲田かな	片岡 学	別府市	原爆ドーム映し七十年水澄みぬ	佐川初江	福岡市
かなかなや子等の帰りし部屋に充つ	勝浦弘子	大分市	新涼の空へ見送る子の機影	佐々木多恵	別府市
クレヨンが居間に散らばる残暑かな	門脇 裕	隠岐の島町（島根）	百幹の竹の奥より秋の風	佐藤明也子	由布市
敗戦の風の記憶や生身魂	金澤諒和	大分市	夜濯や心に期するもの育ち	佐野一恵	浜松市
僕の霊に返信する終戦日	加茂克訓	三郷市	横光忌かなわぬ恋の異邦人	塩河寿代	高松市
七十年雲の墓標へ虹の橋	清瀬善三	宇佐市	朝顔や朝来ることの嬉しさに	清水星凜	大洲市
出棺を待つ片蔭のなかりけり	桐村佳苗	上毛町（福岡）	小鳥来るグラタン淡き焦色に	杉森千セ	八戸市
芒原風のいざなふ童歌	工藤ミヨコ	大分市	信号の変はり白息動き出す	相馬正道	八戸市
金平糖ぱつとばらまき冬銀河	久保良勝	東海市	藤椅子や兵士眠れる海に向く	曾我匡史	墨田区
一匹の蚊にもてこずる齡かな	熊地タマリ	上毛町（福岡）	浅沙咲く宇佐八幡の冷き日	高橋千恵	久留米市
赤とんぼ雑魚寝の子らの足の裏	桑原千代	相良村（熊本）	八月の波打ち際の親子かな	高橋まりえ	函館市
花蘇枋乳やる仕草のおぼつかな	古賀京子	大牟田市	草取りも休みとしたり日曜日	高本和子	玉名市
西日さす畳のくすみ昭和かな	後藤祐子	文京区	蟬取りの名人兄は征ったきり	田口兵衛	宗像市
朗報の声に色あり桃の花	小林勝子	福山市	生真面目な学芸員や秋に入る	竹澤 聡	横浜市

幾万の帰らぬ声や蟬しぐれ	竹光直子	別府市	大社より風渡る麦の秋	錦織正子	大分市
ひまわりが見つめた先に光る青	田代裕輝	中津市(高三)	終戦日戦前戦後まつぶたつ	西沢喜文	尼崎市
朝顔の和紙のごとくに萎みけり	辻本直子	金沢市	古文書のひらかな薄し秋灯下	西たかもり	益城町(熊本)
ふるさは異国となりし敗戦忌	竊田紀子	宇佐市	広島忌数多手になる握り飯	西田敏之	神戸市
かなかなや宇佐八幡の杜の声	道願正美	高知市	背泳ぎのゆつたり岸を離れゆく	西 宣子	長崎市
秋うらら風ウインドショッピング	遠見百合子	津久見市	この星もやはり銀河の一滴	西 史紀	長崎市
ひとり居の竝立ち唐辛子乾く	鳥巢裕子	大分市	酔芙蓉あししたのことはまた明日	能勢俊子	綾瀬市
デモに行く父の背の汗熱帯地	豊原清明	神戸市	おつかあと鳴く仔鴉や町夕焼	野中千代子	諫早市
この風を味方につけて生身魂	中嶋あすか	豊中市	ふらここで妻と揺れてる平和かな	野村信廣	町田市
秋の蝶地のぬくもりを捜しつつ	中田ゑみこ	玉名市	離合待つ無人の駅舎法師蟬	橋迫さわ子	大分市
小豆揉む筵に座る遠き母	永田久美子	大分市	愛国も憂国も鵠敗戦忌	橋本有子	吹田市
花嫁や玄界灘は春日浴び	永田絃彦	和水町(熊本)	またひとつ団地に更地葛の花	花本公明	大分市
受験の子道草もせず恋もせず	中野成子	久留米市	コスモスや瓦礫となりし天主堂	林 弘美	時津町(長崎)
打水の先々に来る童かな	永松市夫	宇佐市	天高し近くて遠き英彦の峰	原田祥二郎	田川市
立ち直る証に拾ふ桐一葉	中山アサコ	時津町(長崎)	秋風や親子黙して轆轤蹴り	飯田哲雄	上毛町(福岡)
いきものの声で目覚むるキャンプ場	長山香織	横浜市	仏桑華まつ赤終らない終らない戦争が	比嘉七映	浦添市
天蓋の四隅に潜む余寒かな	南雲玉江	別府市	水筒の蓋に磁石や天高し	樋口ひろみ	小郡市
夏休みスイヘイリーベボクノフネ	鳴神調古堂	三島市	土俵箒しなやかに夏来りけり	平田笙子	福岡市
葛切や話のつきぬ女客	西岡芳枝	長崎市	雲の峰こえて足場を組みにけり	廣岡梅生	志摩市

紅蓮にふれてゆきたる杜の風	藤井淳子	大分市	鶏頭や宇佐に遣りし航空史	矢浦正治郎	半田市
毒ガスの島の過去知る群れうさぎ	藤井きょう子	福山市	口重き兵らに炎夏ただならぬ	山縣ぼん太	鹿嶋市
暮るる秋赤信号の赤深し	藤井隼子	大分市	唐寺の魚板のくぼみ秋の影	山口文子	長崎市
長崎忌芋の茎剥く母の家	藤原弘美	北九州市	一圓の古本めくる遠花火	山崎一馬	福岡市
玉音を聞きしあの日の法師蟬	細井房俊	高松市	嘘ひとつ吞んでダチュラの花ひらく	山下奈美	静岡市
かたつむり小さき村を知り尽くす	細谷拡一	中津市	あの頃の萱葺き屋根の大竈	山村すけお	大分市
戦争を知らずななそぢ蓮の花	本郷民男	韓国慶州市	台風が叫び声あげ走り去る	山元金子	津久見市
終電の改札天の川の下	本田加志子	玉名市	村ひとつふところに入れ山粧ふ	山本健人	大分市
月光や奥耶馬溪の屏風岩	本田幸子	大分市	老兵の去る気さらさら草を引く	山本利子	大村市
文豪の故郷と知りし夜の秋	松村越子	別府市	天の川枯れて久しき街の空	横須賀俊江	さいたま市
井戸端も不戦の話題一番茶	松本俊彦	京都市	新涼や男の子もすなる爪手入れ	吉本栄子	津久見市
秋潮を大きく廻し出航す	溝野智寿子	大分市	耶馬溪の地酒も据ゑて夏料理	吉本友一	上毛町(福岡)
庭花火通り合はせの子も入り	南 暁 あき	鳩山町(埼玉)	つぎはぎの兄の時下足袋グリア咲く	米田美巴子	相良村(熊本)
故郷に心ひかるる盆の入	宮崎道子	中津市	月光や水も漏らさぬ静寂さ	李 優紀	大阪市
カンナ燃ゆ樺美智子の忌の近し	向坊尚子	北九州市	ひと家族まるごと濡れし大噴水	鷺津誠次	可見市
一滴のかぼすのひかり今朝の秋	村上君代	大分市	春もみぢ山従へて動きけり	渡辺忠男	長野市
クレマチス吐息でまわる風車	村上啓子	津久見市	走り根の波打つごとき夏木立	渡辺真奈美	春日市
折りたたむ心の区切り秋扇	村上三枝	大分市	うつすらと刃先の錆や鋏始	渡辺勇三	宇陀市
洋梨は天女の涙かも知れず	村田加寿子	八戸市			

の な か り ょ う す け
講評・野中 亮 介氏（選者）

昭和 33 年、福岡県生まれ。現在も在住。昭和 53 年、「馬酔木」入門。水原秋櫻子に師事。秋櫻子没後は、林翔、千代田葛彦、杉山岳陽らの指導を仰ぐ。昭和 62 年、「馬酔木」同人。平成 7 年、第 10 回俳句研究賞・馬酔木賞受賞。平成 8 年、福岡市文学賞受賞。平成 9 年、『風の木』上梓。同著にて第 21 回俳人協会新人賞受賞。平成 13 年、「馬酔木」の僚誌として『花鶏』（あと）を創刊主宰する。平成 26 年、読売新聞西部版「よみうり西部俳壇」選者に就任。俳人協会（前理事）。著書に句集『風の木』（角川書店）、鑑賞読本『俳句ころ遊び』（実業之日本社）・『俳句実作入門講座』（共著・角川書店）、『鑑賞 女性俳句の世界』（共著・角川学芸出版）、『林翔の一〇〇句を読む』（共著・飯塚書店）などがある。

memo

第16回「横光利一俳句大会」表彰式当日句入選作品(平成26年11月15日)

野中亮介・選

【特選】五句

落葉たき中に三時のおたのしみ

佐藤真優(宇佐市・小3)

ハリー・ポッターふと手に取りて火の恋し

多田淑子(東広島市)

羅漢への寄進のやうに木の実降る

益田竜昇(大分市)

たつぷりと亡夫のジャケツに包まるる

今村七栄(宇佐市)

最後まで人につくして冬紅葉

藤井淳子(大分市)

【秀作】五句

団栗の落ちて地球に音ひとつ

富川泉子(大分市)

七五三字佐の呉橋渡りけり

富尾和恵(大分市)

風呼べぬまゝに山茶花さけり散る

清瀬わか子(宇佐市)

一等の案山子のルージュ濃かりけり

清瀬善三(宇佐市)

ボタ山の崩るる音や開戦日

植田桂子(高松市)

編集・発行 宇佐市民図書館 平成27(2015)年10月24日

〒879-0453 大分県宇佐市上田1017-1

TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679

URL.<http://www.usa-public-library.jp/>

九州・沖縄から

文化力

POWER OF CULTURE